

# ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは、ACTニュース編集部です。この号は小学校編となります。新型コロナウイルスの影響で、2月下旬から予定されていた5年生1回目、6年生の2回目は、残念なことに実施できたのは東台福浦小の6年生のみでした。この号では昨年10月に実施した3小学校6年生1回目と東台福浦小6年生2回目の内容をお届けします。なお、実施できなかった児童については来年度実施できるように調整中です！

ACT NEWS 第4号 2020年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## ACTってなーに？ 小学校編

ACTとはアート・コミュニケーション・トライアルの略です。これは「芸術を学ぶ」のではなく、アートを媒体、あるいはツールとして用いることによって、生きていくための力を芸術体験から自ら学ぶ時間です。

子ども一人ひとりが自分自身と向き合うパーソナルワーク。他者と協働しながら展開するペアワーク。正解のない課題に創造的・創作的に取り組むグループワーク。以上の領域で、コミュニケーションをテーマとする芸術体験を通じた学び＝ワークショップ型授業を実践しています。

この取り組みでは、試行錯誤や紆余曲折そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。そこで生じる生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラーを共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有しています。

他者との比較による自信（＝優越感）ではなく、自己への信頼による自信を持てるようになること。「できるかどうかは分からないけれど、やってみる」。それを自分に許せるということ。言い換えると「失敗しても大丈夫」「失敗から学ぶこともある」と思えること。そして、そのような自分を容認できること。それらを繰り返していくことで自分自身に信頼感が生まれてきます。

6年生の1回目は10月に実施しました。嬉しい時の気持ちを絵で表現してみます。思い出した気持ちからどんな雰囲気や色を思い浮かべるのか。それも感性。それを抽象的に「表に現して」みる。表現は生まれながら誰しもしていること。お腹が空いた赤ちゃんは泣きます。誰だって嬉しいときはニッコリします。辛い時に誰かに向ける、いつもと少し違う表情。それも表現です。表現はみんなに必要なもの。だから恐れたり、めんどくさかったりしちゃいけません。

伝わりやすい表現、効率的なコミュニケーションというものはあるかも知れませんが、それが上手くできないからしない、ではないのです。「困難だからやろうとしないのではない。やろうとしないから困難になるのだ（ローマ時代の哲学者 セネカ）」。上手いも下手もない抽象画の世界で、みんな思いっきり楽しんで表現を試みよう。そして、他者の表現を受け入れてみよう。

2回目は卒業を控えた2月下旬に実施。グループで相談をしながら仮説を立て、スパゲッティの建築物を仮設し、最後にできるだけ高い位置にマシュマロを置きます。失敗したらすぐにやり直し。「上手くいくか分からないけど、まずはやってみよう」という体験をします。

これは共同作業ができるようになるプログラムでも、目標達成のために自らの労働をそれに還元していく訓練でもありません。ここでは紆余曲折のプロセスそのものがアートに見立てられます。自分たちの意思によって、自分たちだけの答えを探りながら見つけようとする、まさにアート・コミュニケーション・トライアルな時間なのです。

## うれしいってどんないろ？



2019年10月1日(火)東台福浦小 / 2日(水)吉浜小 / 8日(火)湯河原小の6年生たちと。

6年生の1回目は、オイルパステルを使って抽象画にチャレンジです。抽象画とは具象画（風景・動物・グラス等、モノや形を「それ」だとわかるように表現する絵のこと）とは異なり、目に見えないモノ、つまり描く人の内面やイメージを表現する絵のことです。すごく簡単に言うと「何を描いているのか、パッと見ただけではわからない」絵ですね（笑）。今回は、「うれしい気持ち」をテーマに、「線・点・面」だけで表現するというルールを設けてチャレンジしてもらいました。ちなみに、オイルパステルはクレヨンよりも柔らかいので、ヌルヌルと滑らかに描ける画材です。指を使って色を混ぜたり伸ばしたりもできるので、色々あそびながら描けるという楽しさがあります。

実際に作業をしてみると、まったく臆せずにどんどん描く人もいれば、戸惑ってしまう人もいました。どんどん手を動かして楽しんでいる人の「どうした

らおもしろくなるか？」と全身で挑むような「あそぶ力」には、頼もしさを覚えました。「あそぶ」って、ラクじゃないからです。抽象画を描くのは初めての人、クレヨンのようなもので描くのは久しぶりという人も多いでしょう。学年が上がっていくと、絵の具などを使って具象画(実物に似せて描く絵)を描くことが増え、似ているかどうかで上手・下手と評価されることも増えます。そんな中、突然「形は描きません」と言われ、小さい子が使うような画材で描くとなれば、ためらってもおかしくない。それは自然なことだと思います。

感想には「つまらなかった」と書く人もいれば「たのしかった」と書く人も。一番多いのは「スッキリした」でした。上手下手といったものさしをちょっと手離して、思いきり描けた人が多くいたということだと思います。よかったです。

## マシュマロチャレンジ



2020年2月25日(火)東台福浦小の6年生たちと。

6年生の2回目は「マシュマロチャレンジ」です。パスタ、マスキングテープ、糸を使って構造物を作り、高さ何cmのところにマシュマロを置けるかを競うゲームです。これは割と有名なもので、企業研修の場でも利用されています。ギネス記録もあるくらい

なので、しっかりとしたルールも設けられており、みなさんにもそれに則ってチャレンジしてもらいました。

東台福浦のみなさんは、目の前にある課題にパッとスピーディーに取りかかる人がとても多いです。何年間もいっしょに過ごしてきたメンバーならではの、呼吸のあったやりとりが、そうさせているのかもなと感じました。また「パスタの長さは何センチですか?」、「マシュマロはどのぐらいの重さですか?」といった具体的な質問が出てきたり、非常に構造的な美しさを持つものを作るグループも出てきました。女子がひっぱっていくグループも多く、男女ともにのびのびとトライ・アンド・エラーに取り組んでくれました。

※新型コロナウイルスの影響により、今年度は東台福浦小のみの実施となりました。実施できなかった児童については、来年度に実施できるよう調整中です！